

『カンタベリ物語』本文の中でチョーサーが初めて使用した ラテン語とフランス語の研究(5)

保谷 一三

これはチョーサーが『カンタベリ物語』本文で初めて借用したラテン語とフランス語の研究である。今回は(4)に続き, 145. emplastre~180. fruytesteresまでの36語を扱う。借用の年代は1386年(頃)と確定しており, これとフランス語における初出年とを比較し, 借用の早さ, 借用の文化的背景を論じる。その際大陸のフランス語と英国のフランス語とを区別し, 馴染みのフランス語からか海峡の彼方のフランス語からかによって借用の意味の違いを明らかにする。

キーワード: チョーサー, ラテン語, フランス語, 借用語

145. emplastre *v*¹⁾ (AF)²⁾ E.³⁾ Mch.⁴⁾ 2297⁵⁾.

Pardee, as faire as ye his (Salomon's) name *emplastre*,/(He was a lechour and an ydolastre;

(大意) 本当の話, 彼(=ソロモン王)の名前を美化することはいかようにでもできますが, (しかし彼は道楽者, 偶像崇拝者であったのです。)

Dauzat⁶⁾によると OF⁷⁾plâtrer *v* は1160年初出。《emplâtrer》の意味。Rothwell⁸⁾によると AF *emplastrer*, -ir *v* は“cover with plaster”の意味で, 医学用語である。The Riverside Chaucer⁹⁾の footnote は“apply a medical plaster”が本義で, 転義として“gloss over”(うわべを飾る)があり, この場合は転義が該当するとしている。OF にない em-付きと言う点から, AF とできる。

146. empoysoner *n* (AF) C. Pard. 894.

(Thus ended been thise homicydes two)

And eek the false *empoysoner* also.

(大意) (かくして仲間の一人を切り殺した二人の男も毒入りのブドウ酒を飲んで死に) 毒を盛った方も息絶えたのです。

lexis¹⁰⁾によれば OF *empoisoner v* 1080年初出, *empoisonneur n* 1200年初出。Rothwell によれば AF

に *empoisonur*, *empuysounour n* がある。i を y で代えていること, AF の agent suffix には -ur, -our, -er, -ere, -or, -oir があることなどから, AF とできそうである。少なくとも動詞部分の *empoyson*-は AF といえよう。

147. encorporing *v* (AF) G. CY. 815.

And eek of our materes *encorporing*,

(大意) またさまざまな化合物の作り方(に付いてもお話ししましょう。)

Greimas¹¹⁾等にはないが, Rothwell によれば AF には *encorporer v* “incorporate”がある。例文は que le Chastell L. ové la seigneurie de B...soient desore en avant annexez, uniez et encorporez a la dite principalté (B の所領と L 城は今後件の侯爵の領地に合併, 統一, 併合されるべしと) Statutes of the Realm II 100 ix.であるが, この場合は「化合させる」の意味である。

148. enluting *v* (F) G. CY. 766.

And of the pot and glasses *enluting*,

(That of the eyre mighte passe out no-thing?)

(大意) (またいろいろな物質を混合するための)壺やガラス器の(粘土による)封印についても(お話ししましょうか。これは発生するガスを外に逃がさない方法ですが。)

Rothwell にはないが, *lexis* によれば *F luter < bou-cher avec du lut >* が1534年初出である。接頭語 *en-* はラテン語の *in-* をもととするロマンス語系の接頭語で, OED¹²⁾ によれば, この *en-* を使った造語が英語でも盛んに行われた。したがってこれもチョーサーによる新造語とみることができる。ここではたんに *F* としておく。

149. *entycer n* (AF) I. Pars. 1015-20.

/but natheless, if that another man be occasioun or *entycer* of his sinne,

(大意) しかし他人に動かされたり, あるいは他人の教唆で罪を犯したばあいには,

Greimas によると OF *enticier v* 1160初出, *< pi-quer ; provoquer >* の意味。これに対して Rothwell では AF *enticer* “induce” で, 語尾の特徴から AF と言える。

150. *envoluped pp* (AF) C. Pard. 942.

(I rede that oure Hoost heere shal bigynne.)

For he (=sir hoste) is most *envoluped* in sinne.

(大意) (言いましょう。同行の旅館のご主人にまず聖遺物を買ってもらいます。) なぜなら彼こそ一番に罪に浸っているからです。

lexis によれば OF *voluper* が現代フランス語で *enveloppeur* となっている。Rothwell によれば AF *envoluper* で, これは AF と断定できる。

151. *equally ad* (AF) D. Som. 2237.

(Ther is no man can demen, by my fey,)

If that it were departed *equally*.

(大意) (喜捨だから僧共の間に均等に分けよ, といって, 床の中で僧の手に放屁した病人は何と悪賢い男だろう。しかし実のところ) 屁を均等に分ける方法なんて考えようもないが。(ありますよ, 小姓が答えた。)

Greimas によると OF *égal* XII^e s. 初出。Rothwell によれば AF *equal* で, Au roys A. est en fierté equal

(A. 王にも傲慢さでは劣らない) *Le Roman de toute chivalerie* (D) 104 v. といった文例がある。従ってこれは AF と断定できる。

152. *equacion n* (AF) F. Flk. 1279.

(And his proporcionels convenients)

For his *equacions* in every thing.

(大意) (それに惑星運行表を作り,) 十二宮の中にすべてを位置付けた。

lexis によれば OF *équation* 1200年初出。Rothwell によれば AF *equacion* は天文用語で “二つの天体が同じ zodiac に来る conjunction” の意味。チョーサーの場合天球を十二等分したものを示す。しかし AF 綴りの *-cion* から AF とする。

153. *erect a* (AF) B. ML. 9.

(…the shadowe of every tree

Was in lengthe the same quantitee)

That was the body *erect* that caused it.

(大意) (…すべての樹木のかげの長さが) それを作る立ち上がりの部分と等しくなった (ので)

erect はラテン語の過去分詞 *erectus* に由来する。Greimas にはないが, Rothwell によれば AF *erect* は “(pointing) up (wards)” の意味である。従ってこれは AF とできる。

154. *eschew a* (AF) I. Pars. 970-5.

/and the latter aryseth, and is the more *eschew* for to shryven him, namely, to him that is his confessor./

(大意) (何度も罪を犯す人は神の慈悲にも縫らなくなり…) 罪からの立ち上がりは益々遅れ, 告白即ちざんげ聴聞僧に話す事も益々嫌います。

Greimas によれば OF *eschif*, *eschiu*, *eschi* で綴りが一致しない。Rothwell によれば AF 動詞 *eschivre*, *eschever*, *-ewer* “escape from” の過去分詞は *eschevé*, *eschewé*, *eschived* でチョーサーの綴りにより近い。従って AF としてよい。

155. *especiale a* (OF/AF)¹³⁾ B. Mel. 2355-60.

First shul ye clepen to your conseil

A fewe of your freendes that been *especiale*;

(大意) あなたはまず二三の特別な親友を呼んで相談なさいませ。

Greimas によれば OF *especial* 1320年初出。＜1. puissant 2. intime＞の意味。ここでは2. に当たる。Rothwell にも *especial* がある。The *Riverside Chaucer* によれば The Tale of Melibee は “a close translation of the *Livre de Melibée et de Dame Prudence*, written by Renard de Louens sometime after 1336” である。するとフランス語の原文にあったものをそのまま使ったとも言えるし、AF にあるので使ったとも言える。そこで OF または AF としておく。

156. *espiaille n* (AF) B. Mel. 2505-10.

Thanne shul ye evermore countrewayte embusshe-
ments and alle *espiaille*.

(大意) それからあなたは常に待ち伏せといろいろなスパイにお気をつけなさいませ。

Greimas によれば OF *espie* ＜*espion*＞である。1200年初出。Rothwell によれば AF にも *espie* があるが、*espiale*, *-ial*, *-iaille* “spy, scout” もある。従ってこれは AF としてよい。

157. *eternal a* (Vulgar L)¹⁴⁾ G. SN. 34.

Thou (=Mary) comfort of us wrecches, do me
endyte/Thy maydens deeth, that wan thurgh her
meryte/The *eternal* lyf...

(大意) 我らの悲惨を慰めてくださるマリア様、あなたの助力により、私はあなたの愛する一人の乙女が死んでその功績により神より永遠の命を授かった次第をはなさせていただきます。

Dauzat, *lexis* によれば OF *éternel* 1160年初出。俗ラテン語のひとつ教会ラテン語 *aeternalis* に由来する。フランス語はその後一貫して *éternel* であるので、チョーサーの *eternal* は教会ラテン語に戻って英語化したことになる。

158. *exaltat a* (L)¹⁵⁾ D. WB. 704.

(And thus, god woot! Mercurie is desolat)

In Pisces, when Venus is *exaltat*;

(大意) (このように人こそ知らないのですが、おとめ座では元気な男メルクリウスは)うお座に入ると(元気をなくします。逆に女ビーナスはこの座に入ると大元気です。

Dauzat によれば *exalter v* X^es. 初出。しかし過去分詞は *exalté* である。Rothwell にはない。結局ラテン語の過去分詞 *exaltus* から直接に英語化したことになる。

159. *exaltacioun n* (AF) F. Sq. 49.

(Phebus the sonne ful joly was and cleer;)

For he was neigh his *exaltacioun*

(大意) (太陽のフェブスは歓喜して明るく輝きました。)最高星位に近づいたからです。

lexis によれば OF *exaltation* 1250年初出。Rothwell によれば AF *exaltacioun* がある。語形から AF とできる。

160. *examinacioun* (AF) B. Mel. 2455-60.

/And for-as-much as that the *examinacioun* is neces-
sarie, lat us beginne at the surgiens and at the
phisiciens, that first speken in this matere.

(大意) / (傷の) 診断が必要なかぎり、外科医と内科医にまず聞きましょう。この事件ではこの人たちの発言が優先します。

Greimas によれば OF *examination* 1283年初出。Rothwell によれば AF *examinacioun*, *-ation* がある。綴りから AF とする。

161. *executeth v* (OF/AF) A. Kn. 1664.

(The destinee, minister general,)

That *executeth* in the world over-al.

(The purveyaunce, that god hath seyn biforn,)

(大意) (運命はすべてをつかさどります。)この世界全体について (神があらかじめおぼしめされた摂理

を) 執行します。

lexis によれば OF *exécuteur* 1282年初出。Rothwell によれば AF にも同じものがある。例文として *soit celle penance de l'arson mis en respit...et ad onques ne soit mie exécuté* (放火の刑罰が執行延期になり...また全く執行されないとすれば) *Statutes of the Realm* I 367 X.がある。結論として OF, AF のどちらとも言える。

162. *expans a* (L) F. Flk. 1275.

(His tables Toletanes forth he broght,
Ful wel corrected, ne ther lakked noght,
Neither his collect ne his *expans* yeres,

(大意) (アウレリウスは所持していたトレド天文表をだした。間違いは完全に直してあり、欠ける所はなかった。) 20年, 40年, 60年毎の惑星位置表も, 1年から20年までの毎年の位置表も完全だった。

Greimas によれば OF *espandre* 1080年初出。< *répandre* > の意味。しかし過去分詞は *espandu* である。Rothwell によれば AF *espandre* の過去分詞は *espandew*, *espandi*, *espandu* である。結局ラテン語 *expandere* の過去分詞 *expansus* に戻る。

163. *expelle v* (AF) A. Kn. 2751.

(The vertu expulsif, or animal,
Fro thilke vertu cleped natural)
Ne may the venim voyden, ne *expelle*.

(大意) (駆逐力ないし動物力はそういう力ゆえに自然力とも呼ばれていますが, 負傷したアーサイトの体から毒を除くことも追いつくこともできません。

Greimas 等によれば OF にはこの動詞はない。Rothwell によれば AF *expeller* “*expel*” がある。例文として *si les Justices facent droit au Roy et au people, le dit sire O. serroit expellez des Isles* (もし裁判官が王と国民の前に正義を行くなら, O. 殿は英国諸島から追放されるであろう) *Rotuli Parliamento-rum*¹ ii 364 がある。従ってこれは AF としてよい。

164. *expulsif a* (OF) A. Kn. 2749.

The vertu *expulsif*, or animal

(大意) 駆逐力ないし動物力

Dauzat によれば *expulsif* 1265年初出。医学形容詞としている。Rothwell によれば AF にはない。*expulsif* は古典ラテン語にはなく, 俗ラテン語から OF となった。

165. *fauconers npl* (AF) F. Flk. 1196.

Thise *fauconers* upon a fair river,
(That with hir haukes han the heron slayn.)

(大意) 鷹匠たちを美しい川のほとりで (見ました。鷹を使ってサギを捕らせていました。)

Dauzat によれば OF *fauconnier* 1160年初出。Rothwell によれば AF *fauconer*, *fauk-*; *faukener* “*falconer*” がある。語形の特徴から AF とできる。

166. *femenye n* (OF) A. Kn. 866.

He conquered al the regne of *Femenye*
(That whylom was y-cleped Scithia;)

(大意) 彼は女国を完全に征服しました。(これは昔スキティアと言っていました。)

Greimas によれば OF *femenie* 1160年初出。1. 女性 2. 女国の意味がある。Rothwell にはない。従って OF としておく。

167. *femininitee n* (OF) B. Mel. 360.

O serpent under *femininitee*,
(Lyk to the serpent depe in helle y-bounde,)

(大意) (その女イスラム支配者は) 何たる事でしよう, 女の姿をした蛇だったのです。(深い地獄に繋がれていた (そして後にアダムとイブをだました) 蛇と同類であったのです。)

Dauzat によれば OF *fémininité* 1265年初出。Rothwell にはない。OF としておく。

168. *fen n* (L) C. Pard. 890.

(But, certes, I suppose that Avicen)
Wroot never in no canon, ne in no *fen*

(Mo wonder signes of empoisoning
Than hadde thise wrecches two, er hir ending.)

(大意) (しかし, 確かな話, 私の感じを言えば, ア
ビセナでさえ,) (この二人のふとどきものが死ぬ前に
見せた中毒症状よりもすごいものは,) キャノン(=巻)
の中でも章の中でも一度も書いていません。

The Riverside Chaucer explanatory notes によれ
ばアラビアのアビセナの医学書は第四巻第六章で毒物
を扱っている。アラビア語で *fann*, ラテン語になると
fen。Greimas にも Rothwell にもこの語はない。

169. fermentacioun *n* (AF) G. CY. 817.

Our cementing and *fermentacioun*,
(Our ingottes, testes, and many mo.)

(大意) 私たちのする密閉法や発酵法 (鋳型, 金銀
分析用灰皿, その他数々。)

Dauzat によれば OF *fermenter* *v* 1270年初出。しか
しラテン語には既に *fermentare* がある。製パン技術
の関係らしい。Rothwell によれば AF にも *fermenter*
v がある。しかし名詞形は OF, AF ともにない。Dau-
zat によれば *fermentation* 1539年初出。チョーサーの
fermentacioun はそれより153年も早い。また *-cioun* と
いう綴りの特徴から AF としておく。

170. *fermerere n* (AF) D. Som. 1859.

(After his deeth, I saugh him born to blisse
In myn avisioun, so god me wisse!)
So did our sexteyn and our *fermerere*,

(大意) (あなたが町から去って二週間足らずで子供
が死にましたと主婦が言うと, 修道僧は言った, お子
さんが死後天国に召されるのを幻で見ました。神のお
導きです!) 聖具室係も病院長の修道僧も見ました。

Dauzat によれば OF *enfermier* 1298年初出。infirm-
ier fin XIV^s.である。Rothwell には AF *fermerie*,
enfermerie “infirmery” しかない。しかし OF の pre-
fix *en-* は *in-* となり, *-ier* はそのまま。従って OF とは
言いがたい。

171. *fervent a* (OF/AF) I. Pers. 535-40.

/Ire, after the philosopfre, is the *fervent* blood of
man y-quickd in his herte, thurgh which he wole
harm to him that he hateth./

(大意) 怒りは哲学者によれば, 熱い血が心臓の中
にたぎり, そのために憎いと思う相手に危害を加えた
くなる状態です。

Dauzat によれば OF *fervent* fin XII^s.初出。<
bouillonnant> の意味。Rothwell によれば AF *fervent*
がある。例文の中に *amour fervent* 「熱愛」が出てい
る。OF, AF どちらでもよい。

172. *festlich a* (AF) F. Sq. 281.

(This straunge knight...

...

...

...

He most han knowen love and his servyse.)

And been a *festlich* man as fresh as May,

(大意) (彼 (=突然入って来てカナスと踊った見知
らない騎士) は愛の神キュービッドとその助けをよく
心得ている) 春の五月のようにさわやかな, 祭りの好
きな人であったに相違ない。

Greimas によれば OF *feste* の形容詞 *festif*, *festos*,
festel, *festivel* XII^s.初出。<*joyeux*> の意味。Roth-
well によれば AF *feste*, *faiste*, *fest* の形容詞は *festal*,
festel, *festival*, -el “rejoicing” の意味。-lich は英語の
語尾で, これをつける名詞としては語形から OF *feste*
よりも AF *fest* の方が適当であるので AF とする。

173. *fige-leves npl* (AF) I. Pers. 330-5.

/And whan that they knewe that they were naked,
they sowed of *fige-leves* a manere of breches to hiden
hir membres./

(大意) そして裸体に気づくと, イチジクの葉でズ
ボンまがいのものを縫い上げて脚を隠した。

Chaucer's Romance Vocabulary の Mersand は
Not in N. E. D. (=OED) としている。OED の *fig-leaf*
は1535年初出の例として *Genesis* iii. 7 の Coverdale
による英訳を出している。即ち OED の手落ちで又は
不徹底で1386年のチョーサー例が記載されていないの

である。

Dauzat によれば OF *figue* XIII^es. 初出。そして *la forme dialectique* として *fige* がある。Rothwell によると (方言のひとつである) AF には *fige, fig, figue* がある。語形から AF としておく。leves は英語。

174. *for-brused* (AF) B. MK. 3804.

(But in a chayer men about him bar,)
Al *for-brused*, both bak and syde.

(大意) (しかし人々はいすに彼 (= シリアのアンティオクス王) を載せて運びました。) 背中も脇腹も擦り傷だらけでした。

Greimas によれば OF *brisier, bruisier* < *rompre, briser* > がある。Rothwell によれば AF *briser, -cer, bru(i)ser, brusser, breser* “break” があり, past participle は “bruised, hurt” の意味。AF に *bruser* があり, 過去分詞を身体的負傷について使う点で AF とできる。

175. *forge n* (OF/AF) A. Mil. 3762.

(A softe paas he (= Absolon) wente over the strete
Until a smith men cleped daun Gerveys,
That in his *forge* smithed plough-harneys;

(大意) ゆったりした足取りで彼 (= アブソロン) は通りを歩き, ジェルベイズ殿と呼ばれる鍛冶屋までやって来ました。鍛冶屋は鍛冶場で鋤の部品を作っていました。

Dauzat によれば OF *forge* XII^es. 初出。ラテン語の *fabrica* < *atelier* > に由来する。のちに *spécialisé comme* < *lieu où l'on travaille le fer* > となった。Rothwell によれば AF にも *forge* “forge, smithy” がある。例文として *va mener mes chivalx au forge pour ferrer* (鍛冶屋へわしの馬を連れて行き, 蹄鉄を打ってもらって来なさい) *La maniere de langage* 50 がある。OF, AF のどちらでもよい。

176. *formal a* (L) B. Mel. 2585-90.

/The fer cause is almighty god, that is cause of alle

things./The neer cause is thy three enemys./The cause accidental was hate./The cause material been the fyve wounds of thy doghter./The cause *formal* is the manere of hir werkinge, that broghten laddres and coloumben in at thy windows./The cause final was for to slee thy doghter ;...

(大意) (妻のブルーデンスは夫のメリベウスに向かって言った。)/遠因はすべてを動かす全能の神です。/近因は三人の敵です。/偶因は憎みです。/実質因は娘の五ヶ所の傷です。/形式因はハシゴをかけて窓から侵入した彼らの手口です。/最終因は娘の殺害が目的だったことです。

Dauzat によれば OF *formel* XIII^es. 初出。Rothwell によれば AF *formel, furmel* である。結局 *formal* はラテン語から直接に作られねばならない。*The Riverside Chaucer* の explanatory notes によればこの Melibeus の物語は “a close translation of the *Livre de Mélibée et de Dame Prudence*, written by Renard de Louens sometime after 1336” であり, この伝語版のもとである 1246 年のラテン語物語 *Liber consolationis et consilii* は利用していない。それにチャースーの中にみられる “Latin terms” は全く存在しない。OED によればこの “Latin terms” は The four causes of Aristotle: the efficient, the formal, the material, and the final である。したがってチャースーはアリストテレス哲学のラテン語版から直接に *formal* を造語したことになる。

177. *fortunat a* (L) B. NP. 3966.

(And the contrarie is Ioie and great solas,
As whan a man hath been in povre estaat,)
And clymbeth up, and wexeth *fortunat*,

(大意) (その逆は歓喜と大いなる慰めです。例えば人が貧困から身を起こし) 幸運に恵まれ (栄え) たときに味わえます。

Dauzat によれば OF *fortuné* 1360 年初出。< *heureux* > の意味。< *riche* > の意味は XVII^es. になってからであるので, ここでは関係がない。Rothwell にもない。*The Riverside Chaucer* の explanatory notes によればチャースーのもととなった物語は “Del coq e del gupil” と *Roman de Renart* の二つで共にフラン

ス語の物語である。したがってここではチョーサーが独自にラテン語から造語したと考えられる。実はチョーサーは1386年のカンタベリ物語よりも早く、1377-83年の間¹⁶⁾にボエチウスの有名なラテン語書“De Consolatione Philosophiae”を英訳していて、その中の「はんのわずかなことで人は至福から転げ落ちる」(Book III: Prose IV. 75) のところに hem that been most fortunat がみられるのである。重大な事であるが Mersand が利用した OED はボエチウスの英語版については1000年ごろの OE 訳しか資料にしない事が資料一覧を点検してみて分かるのである。

178. *frankes npl* (AF) B. Sh. 1391.

(‘…whan your housbond is to Flaundres fare,
I wol delivere you out of this care;)
For I wol bringe yow an hundred *frankes*.’

(大意)(僧のジョン殿が商人の細君に言った。)(‘…ご主人がフランダースへ旅立たれたら、その(=お金がほしい) 悩みを救ってあげますよ。百フランおもちしますから。

Dauzat によれば OF franc1360年初出。denier d’or frappé par le roi Jean avec la devise *Francorum rex* と説明している。*The Riverside Chaucer* の explanatory notes によればこの金貨は1360年発行でチョーサー時代の英国では noble 金貨と並んで安定通貨の一つだった。Rothwell によれば AF franc, frank(e), franch(e), fraunc, fraunch(e), fraunque, fronk があり、この coin を使った支払いの例文もある。il rescut de lour pur sun paiement mil et cynk centz francs (彼は支払い金として彼らから千五百フランを受け取った) *Rotuli Parliamentorum*¹ iii ll. チョーサーの綴りの特徴から AF とできる。

179. *frowning pple* (OF) E. Cl. 356.

(‘…
And eek whan I say “ye,” ne sey nat “nay,”)
Neither by word ne *frowning* contenance;
(Swere this, and here I swere our alliance.’

(大意)(侯爵がグリジルデに言った。)(‘…また私がイエスというのだから言葉でノーということも顔をし

かめて拒むこともしないでください。(誓ってください。今ここで私ははっきりとあなたとの結婚を誓います。)

Dauzat によれば OF enfrogner がある。< froncer le nez > の意味。ゴール語の鼻 frogna に起源がある。Rothwell には frun “sullen, surly”, frunce “wrinkle” がある。*The Riverside Chaucer* の explanatory notes によればこの作品の原作はペトルルカのラテン語作品で、そこでは“Sine vlla frontis aut verbi inpugnacione” (いやな顔をするとか口を開いていやですと言うとかはしないで) となっている。frown はガリア系のフランス語で、これをチョーサーが英語化したことになる。

180. *fruytesteres npl* (OF/AF) C. Pard. 478.

(And right anon than comen tombesteres)
Fetys and smale, and yonge fruytesteres,

(大意)(そしてたった今踊り子たちがやって来ます。小柄な美人たちです。それに若い果物売りの女たちもやって来ます。(彼女たちはこの世のモラルを低下させる元凶です。)

Dauzat によれば OF fruitier1277年初出。Rothwell によれば AF fru(i)ter, -ier “fruiterer” がある。ここではすべて男性形。OED によれば fruiter の延長形 fruiterer1408年初出。女の果物売り fruit+estere は1386年チョーサーが作った。しかし今は fruitress を使う。fruit-については OF とも AF とも言える。

(続く)

文 献

- 1) *v* は verb を示す。以下品詞の英語名の略語がここにくる。
- 2) AF は Anglo-French を示す。以下語源となる言語の略語がここにくる。
- 3) E. Skeat ed. *The Works of Geoffrey Chaucer* の Volume IV (TEXT) の目的に表示された物語の集団分類記号で、アルファベット順になっている。
- 4) Mch. Skeat の TEXT 目次に出る The Marchantes Tale の略語。
- 5) 2297. The Marchantes Tale の行番号。何行目で

あるかを示す。

6) Dauzat éd.: *dictionnaire étymologique*.1964.

7) OF Old French を示す。

8) Rothwell: *Anglo-Norman Dictionary* 1992. Fascicles 1-7 完結。

9) *The Riverside Chaucer* 3rd ed. OUP.

10) *lexis* Larousse 社仏語辞典。

11) Greimas: *Ancien Français* 1968.

12) OED The Oxford English Dictionary.

13) OF/AF OF でも AF でもよい。

14) Vulgar Latin 俗ラテン語。

15) L ラテン語。

16) Skeat による。

Abstract

A Study of Latin and French Loan Words Which Chaucer First Used in *The Canterbury Tales* except the General Prologue (5)

Katsuzo HOYA

This is the fifth installment of a study of Latin and French loan words which Chaucer first used in *The Canterbury Tales* except the General Prologue. This time I treat the next 36 words, No.145 emplastre to No.180 fruytesteres. The date of the first borrowing is ascertained to be about 1386. The present study compares the date with that of the first recorded appearance in French, and elucidates the rapidity, and the cultural background, of borrowing. Special emphasis is placed on distinguishing the two sorts of French, Continental French and Anglo-French (or Anglo-Norman), thus making clear the nuance of borrowing. (To be continued)

Department of Foreign languages (English)